

第 16 期研究 1 年次小学部実践

本校は、国語と算数を各教科等を合わせた指導と時間における指導の 2 つの指導形態で取り扱っている。また、カリキュラム・マネジメントの取り組みに沿って、昨年度中に昨年度の担任で作成した年間指導計画をもとに、新年度になってから新担任で児童の実態把握と年間指導計画の見直しを行った上で改善し、授業実践を行っている。国語と算数については、主に教師と児童の 1 対 1 の個別学習の形をとってきた。今回は、6 年生女子 1 名、5 年生男子 2 名、女子 1 名で構成されている高学年組を授業研究対象としたが、高学年組でも児童一人ひとりの実態に応じて、これまで平仮名、曜日の漢字、なぞり書き、音読、文字カード、日記などの個別の学習に取り組んできた。

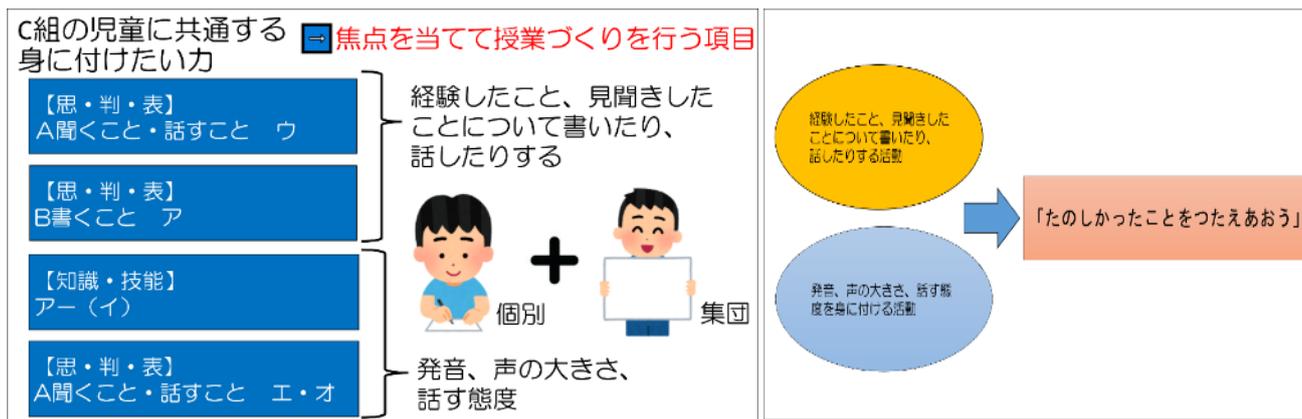
学部別授業研究を行っていくにあたっては、まず国語科の学習内容表を用いて、本学級の児童の国語科の実態について改めて見直すこととした。学習内容表の中で習得できている内容と、取り組んでいるが習得の途中である内容を確認した。その結果、一人ひとりに身に付けたい力が明確になった。その中の「『聞くこと・話すこと』－伝えたいことを思い浮かべ身振りや音声などで表すこと(小学部 1 段階以下小 1 段階と示す)、体験したことなどについて伝えたいことを考えること(小 2 段階)、見聞きしたことのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること(小 3 段階)」「『書くこと』－身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること(小 1 段階)、経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること(小 2 段階)」「『言葉の特徴や使い方に関する事項』－日常生活でよく使われている平仮名を読むこと(小 2 段階)、姿勢や口形に気をつけて話すこと(小 3 段階)」「『聞くこと・話すこと』－挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすること(小 2 段階)、相手に伝わるよう、発声や声の大きさに気をつけること(小 3 段階)」については、段階は異なるものの、4 人に共通して身に付けたい力であることが分かった。

この 4 つの項目のうち「聞くこと・話すこと」は、これまでの個別の学習の中で、なかなか取り扱うことができなかったものである。個別の学習に加え、友達と関わり合う活動も取り入れて「聞くこと・話すこと」の学習や、児童一人ひとりが「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「書くこと」の学習に取り組めるような単元を設定しようと考えた。そこで、これまでの生活単元学習などで経験したことから、楽しかったことを思い出して、原稿を作成し、友達に伝え合う授業を計画することとした。児童が意欲的に取り組むことができるように、近く行われる学習発表会も、同じように保護者に向けて発表するということを伝えた。

(国語)科 小学部			
項目	小学部 1 段階	小学部 2 段階	小学部 3 段階
聞くこと・話すこと	身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の名称や特徴を表していることを感じる。言葉の持つ意味や感情を表現していることを感じる。ア(イ)。	身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の名称や特徴を表していることを感じる。言葉の持つ意味や感情を表現していることを感じる。ア(イ)。	身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の名称や特徴を表していることを感じる。言葉の持つ意味や感情を表現していることを感じる。ア(イ)。
書くこと	身近な人への挨拶や簡単な台詞などを表現したり、簡単な台詞などを表現したりすること。ア(イ)。	身近な人への挨拶や簡単な台詞などを表現したり、簡単な台詞などを表現したりすること。ア(イ)。	身近な人への挨拶や簡単な台詞などを表現したり、簡単な台詞などを表現したりすること。ア(イ)。
読むこと	身近な人への挨拶や簡単な台詞などを表現したり、簡単な台詞などを表現したりすること。ア(イ)。	身近な人への挨拶や簡単な台詞などを表現したり、簡単な台詞などを表現したりすること。ア(イ)。	身近な人への挨拶や簡単な台詞などを表現したり、簡単な台詞などを表現したりすること。ア(イ)。
項目	【知識・技能】		
下位項目	言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。		

(国語)科 小学部			
項目	小学部 1 段階	小学部 2 段階	小学部 3 段階
聞くこと・話すこと	身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の名称や特徴を表していることを感じる。言葉の持つ意味や感情を表現していることを感じる。ア(イ)。	身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の名称や特徴を表していることを感じる。言葉の持つ意味や感情を表現していることを感じる。ア(イ)。	身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の名称や特徴を表していることを感じる。言葉の持つ意味や感情を表現していることを感じる。ア(イ)。
書くこと	身近な人への挨拶や簡単な台詞などを表現したり、簡単な台詞などを表現したりすること。ア(イ)。	身近な人への挨拶や簡単な台詞などを表現したり、簡単な台詞などを表現したりすること。ア(イ)。	身近な人への挨拶や簡単な台詞などを表現したり、簡単な台詞などを表現したりすること。ア(イ)。
読むこと	身近な人への挨拶や簡単な台詞などを表現したり、簡単な台詞などを表現したりすること。ア(イ)。	身近な人への挨拶や簡単な台詞などを表現したり、簡単な台詞などを表現したりすること。ア(イ)。	身近な人への挨拶や簡単な台詞などを表現したり、簡単な台詞などを表現したりすること。ア(イ)。
項目	【思考力・判断力・表現力】		
下位項目	A 聞くこと・話すこと		

〔国語の学習内容表を用いた児童の実態の把握(抜粋)〕



〔単元の構想〕

今回本学級では国語・算数の学習で初めて集団での活動を取り入れるので、集団での授業のメリットやデメリットについて学部で検討し、整理した。小学部の国語・算数は個別で学習しているが、中学部や高等部では、実態別の縦割りグループの集団で行われている。間もなく中学生になる児童も在籍している高学年組において、中学部での集団の学習も視野に入れながら、主体的・対話的で深い学びも期待できる集団での学習に取り組むことは意義があると考えた。

〔集団での授業のメリット・デメリット〕

メリ ット	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち同士の対話や関わりが生まれる。 ・ダイナミックな活動ができる。 ・みんなの前で活動することで、達成感をもつことができる。 ・友達の気づきから学ぶことができる。 ・友達の反応を見て、自分の活動を振り返ることができる。 ・友達のやり方などをモデルとして課題に取り組むことができる。 ・友達のことをさらに知ることができ、仲間意識を育てることができる。 ・興味や関心を広げることができる。 ・ルールや約束を学ぶ場にもなる。 ・主体的対話的で深い学びのうち、特に対話的な学びを充実させることができる。
デ メ リ ット	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの実態に応じた手立てが必要なので、「書くこと」は個別での学習の方が適している。 ・繰り返し取り組み定着を図るための学習などは、個別に取り組んだ方がよい。

以上のような学部での検討を経て、単元の計画を進めていった。単元の個人目標を設定する際は、もう一度学習内容表を見ながら、その単元の学習の中で児童がどのようなことができるようになれば、資質・能力が育成されていると判断できるのか、具体的な姿を想定ながら設定するようにした。また、児童が見通しをもって活動できるように、単元計画の2時から5時は同じ授業展開とした。

小学部C組 国語科 学習指導案（抜粋）

1. 単元名「たのしかったことをつたえあおう」

2. 単元の目標

○経験したことについて、絵や写真などを手掛かりに、楽しかったことを思い浮かべたり選んだりして、表現することができる。（思・判・表 A-U, B-A）

○相手に伝わるように、話し方や声の大きさに気をつけて楽しかったことを紹介することができる。（思・判・表 A-O, 知・技A-I）

○相手を見て、話を聞くことができる。（思・判・表 A-I）

3. 単元の計画（全5時間 本時4/5）

次	時	日時	学習活動	指導内容（学習内容表からの抜粋）
1	1	10/30	<ul style="list-style-type: none"> 顔の体操をする。 学習の流れを確かめる。 思い出アルバムから、楽しかったことを選んで書き、友達に伝えることを知る。 どんな話し方や聞き方がよいかを、電子黒板で、高等部生徒の話し方を見て話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるように、話し方や声の大きさに気をつけて紹介することができる。 相手を見て、話を聞くことができる。
2	2～5	11/2 11/4 11/5 （本時） 11/6	<ul style="list-style-type: none"> 顔の体操をする。 学習の流れを確かめる。 思い出アルバムから、楽しかったことを選んで、課題に沿って文章を書く。（個別） 相手に伝わる話し方や、聞き方に気をつけて、紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験したことなどについて、絵や言葉などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすることができる。 相手に伝わるように、話し方や声の大きさに気をつけて紹介することができる。 相手を見て、話を聞くことができる。

5. 単元の個人目標

	実態	個人目標
A	<ul style="list-style-type: none"> 写真を手掛かりに、したことを思い浮かべて言葉で表現することができる。 教師と会話することで、自分の気持ちを言葉で表現することができるようになってきた。 教師の言葉かけで、人前でゆっくり話すことができる。 	①一番心に残った活動について、写真を手掛かりに教師と会話をすることで、その時に感じたことを思い浮かべて文章を書くことができる。（小2段階） ②相手に伝わるようにゆっくり間をあけた話し方を意識して、紹介することができる。（小3段階）
B	<ul style="list-style-type: none"> 帰りの会での1日の振り返りで、楽しかったことを2枚の写真から選ぶことができる。 「気をつけ」の合図で、前を向くことができるようになってきた。 	①思い出アルバムの中から、写真などを手掛かりに心に残ったことを思い浮かべ、選ぶことができる。（小1段階） ②教師の促しを受けて、紹介している人を見て話を聞くことができる。（小学部1段階）
C	<ul style="list-style-type: none"> 写真を手掛かりに、楽しかったことを選び、その時の気持ちを簡単な言葉で表現することができる。 手本があれば、安心して平仮名を書くことができる。 その時の気持ちによって、声が大きくなったり小さくなったりすることがある。 	①写真を手掛かりに、楽しかったことを選び、その時の気持ちを文にすることができる。（小2段階） ②相手に伝わるように、声の大きさを意識して紹介することができる。（小3段階）
D	<ul style="list-style-type: none"> 帰りの会での1日の振り返りで、教師の促しを受けて楽しかったことを2枚の写真から選ぶことができる。 教師の促しを受けて、顔をあげて話をしている人を見るようになるようになってきた。 	①思い出アルバムの中から、写真などを手掛かりに楽しかったことを思い浮かべ、指差して選ぶことができる。（小1段階） ②教師の促しを受けて、紹介している人を見て話を聞くことができる。（小1段階）

授業の展開については、学習活動の4と5を授業の中心とし、「個別で課題に沿った文章を書く」活動では、生活単元学習等での活動の様子の写真をまとめた「思い出アルバム」を手掛かりにして、心に残った活動を選び、紹介カード作りに取り組んだ。児童の実態に応じて、教師と会話をする事で、その時の様子や気持ちを考え、文章にして表現できるようにした。5の「書いた文章を紹介し合う」活動では、伝わるように意識して話したり、紹介する人を見たりすることができるように、はじめに「話し方・聞き方」のポイントを確認してから、実際にみんなの前に立って発表を行った。

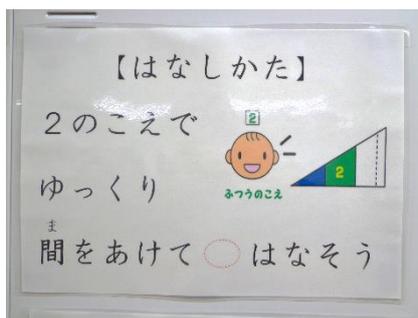
〔授業の展開〕

学習活動	活動の詳細
1 はじめのあいさつ	
2 顔の体操	・顔のマッサージ ・「あ・い・う・え・お」の口の開け方体操
3 今日の学習について知る。	・思い出アルバムの中から心に残った活動を選んで、課題に沿って文章を書くこと、紹介し合うことを知る。
4 個別で課題に沿った文章を書く。	・思い出アルバムの写真を手掛かりに、心に残った活動を選び、伝えたいことを表現する。 ・話し方のポイントを確認し紹介の練習をしたり、紹介する人を見る練習をしたりする。
5 書いた文章を紹介し合う。	・「話し方・聞き方」のポイントを確認し、意識して話したり、紹介する人を見たりする。
6 活動の振り返り	・紹介の仕方や、聞き方を称賛し、次時の活動への意欲につなげる。
7 おわりのあいさつ	

「聞くこと・話すこと」については、児童がそれぞれの個人目標を達成するための手立てを検討し、実施した。まず、児童の緊張をほぐし、発声しやすい雰囲気作りのため、「顔の体操・発声練習」を授業の最初に行った。発表の活動に入る前には、「2のこえ」「ゆっくり間をあけて」などのイラスト等を提示しながら確認するようにした。また、高等部の生徒会長が話す様子の動画を見て、実際に間をあけてゆっくり話す姿を確認した。「聞くこと」のポイントとして「おめめビーム」と「きをつけ」の2つをキーワード化し、随時言葉かけをして意識できるようにした。



〔顔の体操・発声練習〕



〔話し方のポイント〕



〔生徒会長の話し方の動画〕

授業を実施し、個人目標の評価を行った結果については、ここでは、C児についてまとめた。個人目標「写真を手掛かりに、楽しかったことを選び、その時の気持ちを文にすることができる。(小2段階)」については、写真の様子を教師に話をしながら、その時の気持ちを思い出し、なぜ楽しかったのか理由もつけて伝えて、教師と一緒に文にすることができるようになった。「相手に伝わるように、声

の大きさを意識して紹介することができる。(小3段階)」については、自ら何度も読む練習に取り組む姿が見られた。みんなの前でも声の大きさや、ゆっくり話すことを意識して紹介することができるようになった。

以上のように、C児は単元の個人目標を達成することができた。他の児童も概ね個人目標を達成することができた。A児は個人目標「相手に伝わるように、ゆっくりと間をあけた話し方を意識して、紹介することができる。(小3段階)」については、まだ未達成であったが、授業ごとに上達が見られた。今後同様な学習を計画し、経験を積んでいくことが必要だと考えた。

単元終了後の授業の評価として、「主体的・対話的・深い学び」の観点から、学部で意見を出し合った。

	気付き・次回への工夫
主体的 児童が主体的に学ぶための工夫	・「学習発表会」や「友達に紹介する」という目的意識をもつことで、「お母さんに、よろこんでもらいたい。」とつぶやいたり、繰り返し練習するなど、主体的に学ぶ姿が見られた。
対話的 児童が他者とかわりながら学ぶための工夫	・写真を手掛かりに、教師と会話をすることで楽しかったことを思い出していた。児童のつぶやきを繰り返したり、その時の様子を具体的に話したりすることで、その時の気持ちを思い出すことができた。 ・個別ではなく集団での学習にしたことで、友達みんなに楽しかったことを紹介する活動ができた。話をするときも聞くときも、相手がいることで、相手に伝わる話し方・相手が話しやすい聞き方を学ぶことができた。
深い学び 児童が考えたり試行錯誤したりしながら学ぶための工夫	・身近な先輩の話し方を繰り返し見ることで、話し方のポイントが「ゆっくり」「間をあけて」の言葉だけではなく、話し方のイメージとして少しずつ児童に浸透してきた。自分の紹介の場面では、「もう1回」と自分からやり直す姿や、自分や友達の動画も繰り返し視聴する姿が見られた。身近な先輩との違いを自分なりに考えたり試行錯誤したりしていると捉えられた。

〔「主体的・対話的・深い学び」の観点での授業の評価〕

検討する中で、児童の主体的な姿を引き出すためには、児童が自分の取り組む活動に目的意識をもつような手立てを取ることや、目指す姿と自分の今の姿の違いに気付くことができるようにすること、試行錯誤しながら繰り返し練習できるように活動を組むことなどの重要性が分かった。さらに、集団で授業を行うことでの対話的な学びの姿を見ることができたことは、この取り組みの成果であることが確認できた。

単元の学習の評価をもとに、今後の高学年組の学びや授業計画の在り方について検討した。本学級の授業については、今後も伝え合う学習を繰り返しながら表現の工夫ができるように支援したり、意欲的な発表が出来るように対話的な場面を増やしたりしていきたいと考えた。まず、冬休みに楽しかったことを友達に紹介し合う単元を計画した。同じような単元を設定し、学習を繰り返すことで、相手に伝わる話し方や、話の聞き方の定着を図っていくことをねらいたい。さらに、友達の体験と自分の体験を

「同じ」や「違う」と比べることで、相手の表現にも関心が向けられるようにしていきたい。友達の発表のよさを伝え合うなどの指導することで、さらに対話的な学びも深まっていくと思われる。

今回の学部別授業研究を通して、小学部の国語・算数の学習の在り方について検討した。学習内容表を活用して細やかな実態把握を行った上で、領域や実態に応じて柔軟に形態を見直していきたいと考えた。学ぶ領域に偏りがないように指導計画を作成していくことも重要である。中学部へのつながりも意識して、国語と算数の時間を分けて実施することについても検討を深めていきたい。

小学部の授業研究の成果と課題は以下のようにまとめられた。

【小学部授業研究の成果と課題】

【成果】

- ・「聞くこと・話すこと」の活動は、対教師だけではなく、児童同士の関わりもとても大切になってくるので、学級で集団での学習に取り組むことに意義があった。学ぶ領域によって適切な指導の形態や方法を選択するなど、小学部の国語・算数の授業の在り方を見直す良いきっかけになった。
- ・学習内容表を使用して目標設定を行ったので、一人ひとりが目指す姿を明確にして、一人ひとりに適切な個人目標を設定することができた。また、国語科の教科別の授業として取り組んだことでねらいをはっきりさせることができた。

【課題】

- ・国語科のねらいを明確にした授業作りを行ったつもりではあるが、一見すると生活単元学習のような授業になった。ねらいを達成するための手立てなどをさらに工夫し、教師間の共通理解を図る必要がある。
- ・育成を目指す資質・能力の3つの柱については、その単元の中で何をどこまでねらうのか、児童の実態から考慮するのが良いのではないだろうか。1つの単元で3つの柱全てをねらうのではなく、他の単元との関連の中では身に付けてはどうか。
- ・生活単元学習の単元ごとの振り返りで、「心に残った写真を選ぶ」「自分の気持ちを考えて書く」「紹介する」という時間を、単元ごとに設定できたら、国語科として研究授業のような単元を行う時に、その時の気持ちをより鮮明に思い出し、表現できるのではないか。教科間や授業間のつながりをさらに工夫していきたい。